



いしわかかずひさ
さんむ21 石川和久 議員

市長の公約について

問 二期目の市政運営のかじ取りがスタートしましたが、一期目で掲げた公約のうち、停滞してしまった施策について、市長の見解を伺います。

答 市長 一期目では、大きく8つの政策を掲げ、それらを第2次総合計画において重点項目として連動させ、行政運営を行ってきました。

しかし、社会環境やニーズの変化等に伴い、結果として、その実現には至っていない事業もありますが、進展に向けて、引き続き、全力で対応していきたいと考えます。

問 二期目の公約で掲げている「教育施設の充実」に関連して、成東中学校と成東東中学校の統合に係る現時点でのスケジュールを伺います。

答 教育部長 平成28年9月に策定された「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画」において、成

東中学校と成東東中学校の統合は『①地域性や通学距離の視点、また、今後の生徒数・学級数の推移や成東中学校校舎の老朽化への対応等を総合的に勘案し、2校での統合を検討する。②統合年度は、令和5年4月開校を目指し、検討する。③統合後の学校位置は、地域性や通学距離を考慮し、現成東東中学校を学校位置として検討する。』としてい

ます。その際、計画されたスケジュールは、下表のとおりであり、今年度は、統合に関する協議の2年目という段階です。

	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
統合関係	実施計画策定	統合準備専門部会（仮称）の設置		新中学校開校			
施設整備		授業や部活動に必要な施設の整備					
跡地利用			閉校	跡地利用について検討			

【成東中学校と成東東中学校の統合スケジュール（平成28年基本計画抜粋）】

問 本来であれば、実施計画を進めている段階とのことですが、成東中学校の校舎老朽化が懸念されている中、統合が進まないのであれば、市民に説明するべきと考えますが、市長の見解を伺います。

答 市長 4年前の市長就任時、将来のまちづくりや生徒数の推計等を

見据えて、統合後の学校位置を成東東中学校とする計画は、一度立ち止まって、再考した方がいいものと判断しました。そして、成東中学校の老朽化対応のための必要な修繕を実施すると並行して、熟慮した結果、山武市の中心である成東中学校区の市街地に統合中学校を新設したいとの考えにたどり着きました。

ただし、まだ具体的な場所は決まっていませんので、これから教育委員会等と協議し、しかるべき時期に、市民の皆様へしっかりと説明したいと考えます。

問 一期目において、すべての取組を人口減対策および少子高齢化対策につなげるとされていましたが、成果として表れていません。

二期目を迎えるにあたり、市長の目指すべき人口減対策とは、人口増なのか、現状維持とするのか、減少の速度を鈍化させたいのか、そのビジョンを伺います。

答 市長 これまで、人口減少によるさまざまな問題を懸念し、施策のすべてを人口減対策につなげるものとして、一つひとつ取り組んできましたが、その特効薬を見つけることはできませんでした。

しかし、一期目にスタートさせたさまざまな政策を、引き続き取り組み、地域

の活性化を図ることで、人口減少の傾向を、少しでも緩やかなものに抑えていきたいと考えます。

行財政改革の見直しについて

問 今定例会冒頭の、市長の所信表明にも挙げられていた「行財政改革の抜本的な見直し」についてですが、現在、どのような課題を抱え、それをどのように改善していくのか、市の見解を伺います。

答 市長 人口減少に伴う税込減や高齢化の進展による社会保障費の増大、今後見込まれる大型事業の実施など、より一層厳しい財政事情が見込まれます。そのような中、市民の皆様には、約束した政策を着実に実施するため、また、複雑化・多様化する行政需要に的確に対応するため、今まで実施してきた取組をさらに強化しなければならないと考えています。

まず、今まで以上に財源を確保する取組や事務事業の不断の見直し、また、それ以外にも、公の施設の見直し等の財を生み出す改革を推進します。

次に、職員が意欲や能力を発揮でき、組織力の向上につながる人材の育成を推進します。

さらには、業務の効率化を図り、市民サービスの向上を目指すため、自治体DXの推進に取り組んでいきます。